



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

●年頭のご挨拶……………	2	●私の生涯学習……………	5
●これからの生涯学習を展望して……………	3	●平成28年度賛助会員のつどい……………	5
●わがまちの生涯学習……………	4	●随想36……………	6



年頭のご挨拶

公益財団法人 北海道生涯学習協会

会長 宇田川 洋

皆様、新年明けましておめでとうございます。酉年の輝かしい新春をお迎えし、皆様のご多幸を謹んでお祈り申し上げます。

当協会における公益目的事業に位置づけ実施しています生涯学習事業は、皆様のご理解とご支援のおかげで大きな成果を上げておりますことに対しまして、心よりお礼申し上げます。

北海道らしい生涯学習社会の実現のために、「だれもが、いつでも、どこでも」生涯にわたって学習を継続できるように①豊かな人生をおくる学習機会の提供、②技能のスキルアップを図る学習機会の提供、③地域や人づくりのための人材の発掘や育成を図る学習機会の提供、④生涯学習への情報提供と相談の四本の柱を立て、「生きがいつくり生涯学習促進事業」や「学習成果実践事業」、道民の学習ニーズや今日的課題に焦点を当てた「かでの講座事業」等を、札幌会場はじめ遠隔学習機を活用した地方展開を全道各市町村等のご支援をいただき多くの方々の参加を得て開催しております。

また、北海道教育委員会より受託している道民カレッジ事業は、新たに「ほっかいどう学」大学インターネット講座としてリニューアルして3年目を迎え、本年度も道内8大学のご協力をいただきながら制作した講座を、インターネットによる動画配信とDVDの市町村や高等学校等へ配布するとともに、レポート作成に向けた学習会の開催など学習機会の充実に努めており、また、十勝管内中札内村と日高管内浦河町の2会場では、「ほっかいどう学」地域活動推進講座を開催し、コミュニケーションスキルの向上を図り地域活動やまちづくりに貢献する人材育成をめざしております。

さらに、道民カレッジ事業に賛同する市町村、大学、団体等が実施する講座・セミナーを体系化し、道民の方々により確かな連携講座情報を広く提供しており、多くの道民の方々が道内のいろいろな場所で自分が学びたい講座を選び、自己の向上に向けて学んでおります。今年度は既に3,400講座を超え一層充実した連携講座となり、着実に生涯学習の学びが広がっていることを実感しているところであります。

また、当協会では、生涯学習社会の実現に向けた実践において、功績のある団体・個人を表彰し、その功績に報い、もって道民の生涯学習の振興に寄与することを目的に「生涯学習実践者奨励表彰」を設け、今年度は1団体7個人を表彰したところであります。

公益財団法人北海道生涯学習協会といたしましては、今後とも道民一人一人の生涯を通じた自発的な学習活動を支援し、北海道らしい生涯学習社会の振興・発展に全力で取り組んで参りますので、皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

【平成28年度生涯学習実践者奨励表彰】

※敬称略（五十音順）

(団体)

・めだかの学校

(個人)

- | | |
|-------------|-------------|
| ・石岡 六美（鹿部町） | ・傳寶 博愛（札幌市） |
| ・石原 照子（函館市） | ・飛谷 昭一（旭川市） |
| ・内田美佐子（帯広市） | ・豊田カヨ子（札幌市） |
| ・榎本 聡子（札幌市） | |

「これからの生涯学習を展望して」

中札内村教育委員会

教育長 上松丈夫

生涯学習の広がり

人は生まれるとすぐに、意識するしないにかかわらず、家庭を中心とした学習を始めます。やがて、学齢期になると学校を中心に学習を進め、地域や家庭でも様々な学習・体験機会に出会います。さらに、社会に出ると、職業に関わる学習とともに、自主的・自発的な学習を生涯にわたって日常的に継続していきます。

したがって、「生涯学習」を「乳幼児期から高齢者までのライフステージを通して、各人の興味・関心、生活の場面に応じ、自発的意思を基本として、自己に適した手段・方法で、生涯にわたって学び続けること」と言えます。このように、家庭・学校・職場・地域社会で行われるすべての学習を生涯学習として捉えることができ、生涯学習は、私たち一人ひとりの生きていく姿そのものに関わっていると言えます。

今まで、必要以上に学歴が仕事上でも評価されてきましたが、これからは「学歴」よりも「学習歴」を重んじる社会、いわゆる「生涯学習社会」の構築に努めなければなりません。したがって、「生涯学習社会の実現」は、教育委員会だけでなく、首長を中心に計画を立て、実践・行動しなければなりません。

まさに、まちづくり・人づくり・絆づくりの根幹の一つが、村民が主体的に学び、その成果を「まちづくりに還元する」生涯学習の推進であります。

【共育の日】の取組から【生涯学習社会の実現】へ

本村教育委員会では、平成20年4月から施行された「学校教育推進基本計画」や「社会教育中期計画」で「教育の日」の制定を明記しています。議会や教育委員等の多くの方々の理解を図り、準備委員会を組織して検討を重ね、平成22年4月1日から名称「共育の日」としてスタートしています。

生涯学習社会の構築に向けて、「まちづくりは人づくり・絆づくり」であり、「共育」の考え方は、人と人が学び合いや関わりの中で、相互に「共に育ち」成長していくことと捉えています。そのコンセプトの一つ目は、「地域の大人が力を合わせて、子ども達を共に育てる」、二つ目は「大人が主体的に学習や活動をしていく中で、大人も共に育つ」としています。その具体的な取り組みは、多くの方々の理解を深めるために、趣旨の啓発を中心に、大人が子どもに向き合う基本的な姿勢を示した「共育宣言」の作成やセレモニーの開催、教育講演会などを実施しています。

「共育の日」の具現化の一つ～コミュニティ・スクール（CS）の導入～

これからは、「共育の日」の具現化を図るために、体系的・組織的な体制として、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」を導入していきます。これは、学校と家庭と地域社会が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みであり、この活動を通して、大人も学習し共に成長でき、人づくりの契機となります。今後、学校を支える活動や機運の高まりとともに、首長を中心とした村ぐるみの生涯学習推進の取組が必要になります。ここから、村としての生涯学習推進計画や組織体制づくりに取り組むこととなります。

わがまちの生涯学習

知内町教育委員会

教育長 本間茂裕

明治5年学制布告の7年後には旧知内小学校が開校、集落には89戸、生徒数は22名。当時人々が未開の大地を目の前に生きること自体が大変なときに何を差し置いても子弟の教育に村をあげて取り組んだ誇らしい歴史があります。これからも地域ぐるみで「心豊かに創造性に富み、たくましく 未来を切り拓く人づくり」(町教育目標)に取り組んでいきます。

□ 豊かな自然環境と歴史を誇る文化的環境を生かして

知内町は教育をまちづくりの基本に据えています。町ぐるみで少子化・人口減少の抑制に努めながら、海・山に囲まれた豊かな自然環境と歴史を誇る文化的な環境を生かして「誰もが輝く定住・移住・交流のまち」づくりに努めています。そして、各世代の学びの感動が生まれる生涯学習社会を目指しています。地域の可能性やその道のプロ集団である住民パワーを引き出す学校教育・社会教育を推進するとともに、スポーツや観光で知内を訪れる人々との交流を積極的に推し進めることを目指しています。

□ 学校は地域の核(コア)、コミュニティスクールの推進

年代別の人口構成をふまえて、どの年代層にも人生を豊かにする価値ある学びの提供を目指しています。学社ともに5年刻みの中期推進計画を軸に「可能性と能力を引き出す」を合言葉に学社連携のもと感性とロマン溢れる人づくりを進めています。

本町では早くから学校教育を町立の幼・小・中・高による一貫教育の理念のもと進めてきました。丁寧な挨拶の励行や聴く力の育みこそ「考える学力」や「人間力」の育成に繋がると考えています。縦横の学校間ネットワークのもと各園校で共通してそれらの育成に取り組んでおり、社会教育の様々な場面でも同様です。そうした学社に跨る教育活動をコーディネートできる教育行政でありたいと考えています。地域の教育力に支えられる体験活動の推進の要(かなめ)として社会教育の役割は大きく拡大しつつあり、積極的に住民自らまちづくりに参加することを目的に「まちづくりカフェ2016」「しりうち未来づくりセミナー」も開催されています。

学校は児童生徒の学び舎であると同時に学校を支える地域住民の学びの広場でもあります。幼児から高齢者までが幅広く学びの喜びと出会い、異世代間のふれ合いのある学校でありたいと考えています。そのことが地域を元気にすると信じています。

本年度よりコミュニティスクールを町内全校で実施しています。先行実施の湯ノ里小学校は保育所との複合施設「湯ノ里ゆめ学園」としてリニューアルし、0歳児から12歳児までが同じ屋根の下で過ごしています。幅広い幼児・児童の異世代交流の成果に期待しています。児童数が年々減少している現状ですが、逆に小規模校の強みを生かすため、学校はよりきめ細やかな指導体制づくりに取り組み、地域住民はその土地ならではの様々な体験学習等でバックアップを図っています。この地域では、児童が登校時に見守り隊の高齢者の方々に本の音読を聞いてもらう習慣があります。コミュニティ(地域)全体が広義の学校です。そして、これからの新たな地域創生のコア(核)の役割を果たしていくのが学校に他なりません。

それぞれの園学校がそれぞれの地域性、教育的風土を生かし、課題を見据えながら顔の見えるコミュニティスクールに発展していくことに期待しています。



□ 住民目線の図書館活動の推進

知内町中央公民館図書室では「いつでも・どこでも・だれでも読書」を合言葉に、町民による読書冊数が増えることを目指しています。中央公民館内ではあらゆる箇所の本棚を設け、配架や飾り付けを工夫して来館者が気軽に本を手にする環境づくりに努めています。新設の絵本コーナーは幼児と若いお母さんたちの人気スポットです。大人だけでなく児童生徒の意見や要望も生かしながら町ぐるみの読書活動を進めていこうと取り組んでいます。

私の生涯学習

健康生きがいづくりアドバイザー

旭川市 川村 博

私は、70年勤めた会社の顧問になったのを契機に、ボランティアを始めようと考えたが、個人では何もできないことに気づき、資格をとることにしました。まず、通信教育の生涯学習ボランティアコースの2級・1級の資格を取得、その後、健康生きがいづくりアドバイザーの資格に挑戦、1年間の勉強の後、東京で3泊4日の研修を受けて、やっと二つの資格を取得しました。そんなことで、思い立ってから活動するまで5年の歳月が流れました。平成16年に旭川地域生涯学習インストラクターの会を設立して、道民カレッジと連携しての講座を行い、現在までに150講座を終えることが出来ました。それぞれの人達が社会の中で自己実現を図って、学校や社会の学習や教育に係るシステムを変えていくのが生涯学習の理念だと考えています。平均寿命より健康寿命が重視され、命の長さより生活の質の向上が求められる高齢社会となりました。究極の介護予防は健康生きがいづくりにあるといわれる今日、特に高齢者がいかに生きがいと健康づくりを効果的に実践できるかが大きなテーマとなります。

先頃、文部科学省の子供の居場所づくりの一環として、教育委員会より会に要請があり、実験的に3校の小学校での全学年児童を対象とした、放課後子ども教室のインストラクターとして、学習・文化活動・スポーツ・昔遊びなどを、余裕教室などを利用して実施しました。子ども達の「生きる力」は、学校だけでなく地域全体で育んで行かなければならないことを実感しました。念願であった、俳句の授業もやさしい俳句教室として実現することができました。たくさんの佳句に出会えて楽しい教室でした。色々な問題を抱えている今の小・中学生ですが、こんな素晴らしい感性を持っているのですから、私達大人は、しっかり育てていかなければならないと実感しました。遊びとしては、昔遊びの、拳玉・ヨーヨー・独楽など、地域には、名人と云われる大人が居ることに驚きでした。

健康生きがいづくりアドバイザーの会では、企業や地域、行政などさまざまな分野を視野において連携を図りながら活動をしています。バブル崩壊と昨今の不況は、より本質的な等身大の生活意識へ変化しています。アドバイザーにとって、最も中心的な活動は、その人の生き方や人生観にまで及びます。手ぶらの訪問では効果が薄いと見え、本部にお願いして、大道芸の南京玉すだれを習い、なんとか演ずることができるようになりました。小学校の学芸会、結婚式、介護施設の訪問などさまざまな所で大いに受けています。最近では社会福祉協議会よりの要請が多く出掛けることが多くなりました。囃子のリズムやテンポが心地よく、いろいろな形に変化するの面白く演ずる人も、見る人も、心地よいリズムで元気が出て楽しくなると好評です。

これからも健康な限り自分自身の学びのために活動を続けていきたいと思えます。

現在も、苦勞して立ち上げた企業独自の道立訓練校マイスタースクール（現在は大工養成塾）も20年目になり教師として教壇に立っています。

平成28年度賛助会員のつどい

～日頃のご支援に感謝の気持ちを込めて「賛助会員のつどい」を開催しました!!～

(公財)北海道生涯学習協会では、賛助会員相互の研修と親睦を深めることを目的として、平成28年9月23日(金)に北海道立文学館において、「平成28年度(公財)北海道生涯学習協会賛助会員つどい」を開催しました。当日は小雨模様の天候でしたが23名の参加者があり、オリエンテーションのあと文学館の平学芸主幹より特別展「2016年の宮澤賢治 科学と祈りのこころ」について説明を受け、その後特別展や常設展の観覧を行い、最後に景品付きお楽しみ会で終了しました。

参加者からは「北海道立文学館に初めて入館したが素晴らしい施設で感動した」「観覧する前に説明があったので興味・楽しさが倍増した」などのご意見が寄せられました。

当協会としては、今後とも各種事業をとおして皆様の生涯学習へのご支援を続けていくとともに、たくさんの方に賛助会員になっていただけるよう努めてまいります。



随想36

日本酒雑話

私の経営する小さな居酒屋に、ある人の紹介で古川修(よしみ)さんという方が飲みに来て下さった。工学博士でありながら日本酒にめっぽう詳しい方である。私も日本酒好きなもので、居酒屋を始める前に出た彼の『世界一旨い日本酒-熟成と燗で飲む本物の酒-』(光文社新書、2005年)を買って読んでいた。飲んだ酒とくに旨い酒には赤マーカーで印をつけながら…。彼にその本を見せたところ、たいそう喜んでくれた。そして料理を注文し、写真を撮りながら熱燗を楽しんでおられた。時には写真を撮るのを忘れて、半分ほど食べてから写していたりして…。そして彼はインターネットに店の紹介をして下さった。「紹介したくない札幌の居酒屋ゆかり」というタイトルで。

2014年12月、先ほどの本がだいぶ書き直されて光文社知恵の森文庫としてリニューアルされて出された。出版の少し前に店に電話がきて、その本に店のことを紹介して良いかとの事。もちろん有難いことでOKを出したのである。以下に少し紹介する。「北海道は海の幸、山の幸がたまらなく旨いところだが…さらにオホーツクの海の幸を堪能したければ北十八条駅近くにある「居酒屋ゆかり」が異色の店。東大で民俗学(考古学)を研究

していた宇田川洋先生が退官してから開いた店で、オホーツクの研究所に長年勤めた経験から、その地の美味食材を取り寄せている。…」鮭の山づけ、羅臼のホッケ、常呂の長芋サラダなどのことを紹介してくれているのである。それらには「松竹梅白壁蔵三谷藤夫」の燗がとともよく合うと書いて下さった。大手の酒造メーカーでも、手造りの酒にはいいものが多いともいう。実はこの「三谷藤夫」という杜氏名の入ったお酒も、私の昔からの酒友達の紹介で仕入れているが、熱燗が旨い酒である。

このように旨い酒(とくに日本酒)をめぐっての人とのめぐり合いは実に楽しい限りである。と、呑兵衛は勝手に思っているのであるが、反論もあろうかとも思う。乞、ご叱咤。

ちなみに古川修さんは工学博士と紹介したが、ホンダの研究所で革新技術の研究した後、芝浦工大システム工学部教授に就任、日本酒の常温自家熟成、料理との相性などなどを探究し、蔵元と交流もあるそうであり、日本酒好きに美味しい飲み方を発信している日本一酒通(と思われる)方である。『蕎麦屋酒』という大人向けの酒の本も出されている。

(公財)北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

■文部科学大臣表彰受賞おめでとうございます

元北海道生涯学習審議会会長で「ほっかいどう学」ネット検定実行委員会委員長の合田一道氏が、11月10日に「平成28年度文部科学大臣表彰(社会教育功労者)」を受賞されました。

本年もご寄付いただき ありがとうございます

平成28年10月31日(一社)札幌ゴルフ倶楽部様から、社会教育事業に対する助成として、ご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます。

事務局からのお知らせ

●会費納入のお願い

当協会では、今年度も会員の皆様のご支援ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、今年度の会費が未納の方は早めの納入についてよろしくお願いいたします。

●表紙写真提供 三原和廣氏(撮影地 美瑛町)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、北海道新幹線の開業、リオデジャネイロオリンピックでの道産子選手の活躍、北海道日本ハムファイターズ日本一など明るい出来事が多い1年でしたが、一方で、熊本地震や大きな台風被害が発生するなど厳しい年でもありました。

今年も酉年。商売繁盛に縁起がよく、運気をとり込めるといふ明るいイメージの干支だですので、素晴らしい1年になることを期待したいものです。

会報109号で紹介した全国青年団OB会北海道大会は、9月4、5日に定山溪で多くの参加者が集い盛大に開催されました。大会の様子などを号外として差し込みさせていただきました。

当協会では今年も、各種事業を推進し、多くの道民の皆様のご学習活動を支援できるように、職員一同努めてまいりますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。